

新編

金

瓶

梅

寫琴作

因安圖

二集之耳泉管梓





馬琴作

上帙上

外題同前

和漢小説神史の作者善惡邪正賢不肖動靜云為山水景
 致みづから先づの苦樂と喫め然と後作はわが知智慧あるもの
 あり世観情の通七知を以て知るといふも文をけられ亦
 清態を寫さ難く嗚呼談何容易あるんが故に張竹坡が金
 瓶梅の讀法を金瓶梅へ入るも是誤するのれるも人々みづら
 されを誤る夫人は賊と説くもの原戒と示さ然るを聞く者ある因て
 遂に賊と做せられ説くもの過るを聴くものみづら賊と做すもの
 云云とねんいへける這批語寔は説得々好譬は提波達ま悪も
 原是世尊の説く所世尊提波の悪と做て言ふ初々その情の通
 づから之と説くもの歌人の居る名所を知る歌人必その地を踏
 初名所を知るふあは一事と推し萬理の涉らぬ寓言も亦勸懲の

壹

徒行ふし中をばらるる物の本作者々々と澤山さうふ
 へいも詠やのこの這首で源語那首の水滸和漢今昔拔萃
 なる大の齒不の蚤より早也人不知れぬ籍ハ又只花見風より
 背と祇店あつたるも五言も亦數句漏れぬ自沙心荒唐果敢る
 死技小羊長ても大象の遊ばぬ兎園の冊子合巻物の悲し何書う
 わも席のる情態景致いととて寫すも定ぬ見戲の本心弥敢小
 備とも九尺店での使れぬ詞の鎗梅金瓶梅高記書名を假初
 著せしより既ふ今茲の編と接木の室咲閉せ童る間もあは
 だら之急案一夕稟根ゆるは言とあ負ふ枝葉を麗て香白小花の
 大江戸の名物といひても考死策子九序ひ草稿も世筆に信於

天保三年壬辰春正月吉日用鐫 曲亭馬琴識





色多
か
ぬ
ぬ
乃
世
く
の
木
乃
朽
ぬ
と
名
れ
し
み
原
よ
武
太
郎
之
妻
浴
葉

楠
味
齋
正
忠

西
屋
女
力
野



西
屋
女
力
野
似
う
花
う
原
又
が
ぬ
る
夜
を
ま
の
を
の
う
ん

唐
韻

卓
二
西
屋
女
力
野

西門屋啓十郎



不誼
室の山
浮べ床雲
のりける

園

西門屋の新
服

赤の面



月をかくせ
う死

園

喜田

舞妓

舞妓



四橋 綿

琵琶法師

道林の杖のたぢりて
いづれあはれしや

西高

敷代 岡邊



善癖 空八

敵よ 敵よ
金名 不
加え たら
銭

勢

藻塚 鮎齋



右の... 左の... 此一解... 川...



此一解... 川...

右の... 左の... 此一解... 川...



此一解... 川...



川崎山崎

金瓶梅







和漢 駿足 繪本 高麗嶽 名馬畫

花鳥寫真圖會 同画 極彩色

繪本 ぬぢ袴 柳川筆 極彩色

漬物早指南 八首活主人著 初編全冊

餅菓子手製集 初編

手造酒法 後編

女年中祝事始 全二冊

女用文艷詞

女今川千代友鶴

雛形小倉百人一首

源氏かるた 極彩色 管入

同雛かるた 管入

肆書 甘泉堂藏板



新編金瓶梅集

上帙下

甘泉堂版
芝神明前



新編金瓶梅第二集之式

甲午兩版
合卷四冊

擬へる本傳の西門呉服の只月娘力兒自卓二
 木子嬌兒卓二姐喜田意菴の應伯爵祝屋念
 三の祝實念その名を擬し脚色と借らぬ作者の
 腹より生出武太が女兒の琴柱の迎兒阿蓮と
 勿論潘金蓮を寫更しは新作新編か
 趣向の繪策子ち和と漢を合卷乃榮

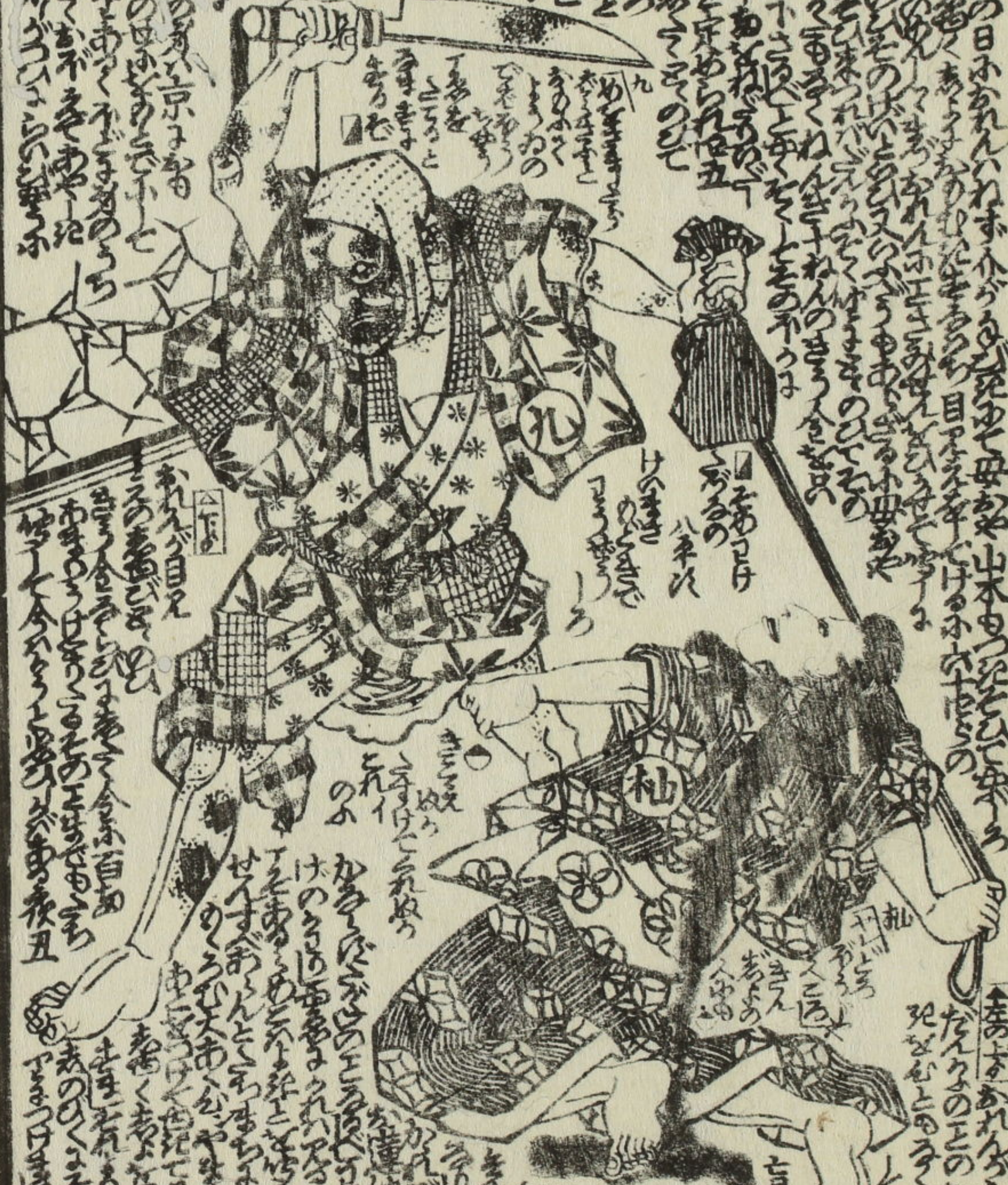
馬琴作
國安画

江戸
芝神明前三嶋町地本問丸
北泉堂和泉屋市兵衛精刊

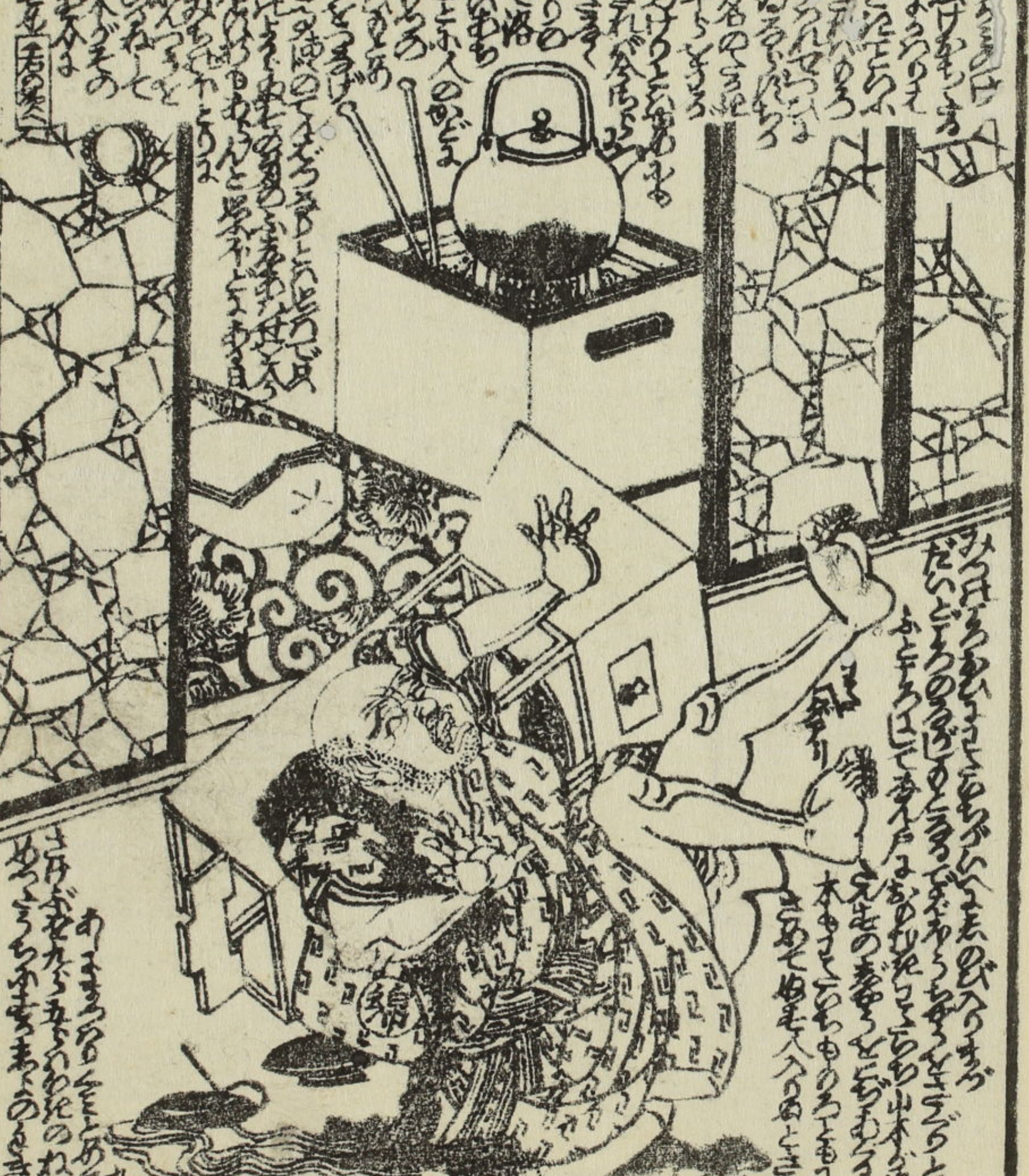




つてそのつ死の目小れんれれ... 山木もつ死をひて来り... 死なむと云く... 盲人の... 八平次... 穴... 袖... 中...



あつてそのつ死の目小れんれれ... 山木もつ死をひて来り... 死なむと云く... 盲人の... 八平次... 穴... 袖... 中...





家傳神女身... 精製奇麗丸... 能胎黒在... 備人... 製其本家... 弘野元備...

國安画



書肆甘泉堂藏版略目錄

新編金瓶梅	八七編	曲亭馬琴作
金瓶羅船利生續	八九編	香蝶樓國貞画
今昔娘評判記	五編	山東京山作
春榮百人一首大全	一大冊本	源氏繪畫
常盤百人一首	一中冊本	漢齋英泉画
麗玉百人一首	一小冊本	中本一冊
美艷仙女香坂本製		

書物地本問屋 甘泉堂和泉屋市兵衛

